

- For more records, click the Records link at page end.
- To change the format of selected records, select format and click Display Selected.
- To print/save clean copies of selected records from browser click Print/Save Selected.
- To have records sent as hardcopy or via email, click Send Results.

<input checked="" type="checkbox"/> Select All	<input type="checkbox"/> Clear Selections	<input type="button" value="Print/Save Selected"/>	<input type="button" value="Send Results"/>	<input type="button" value="Display Selected"/>	Format <input type="text" value="Free"/>
--	---	--	---	---	--

1. ☐ 6/5/1 DIALOG(R)File 352:Derwent WPI (c) 2003 Thomson Derwent. All rights reserved.

012984780 **Image available**

WPI Acc No: 2000-156633/200014

XRAM Acc No: C00-048749

Agents improving odor of substrate containing surfactants

Patent Assignee: KAO CORP (KAOS)

Number of Countries: 001 Number of Patents: 001

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
JP 2000016929	A	20000118	JP 98186196	A	1998070	200014 B

Priority Applications (No Type Date): JP 98186196 A 19980701

Patent Details:

Patent No Kind Lan Pg Main IPC Filing Notes

JP 2000016929 A 11 A61K-007/46

Abstract (Basic): JP 2000016929 A

NOVELTY - An agent improving the odor of a substrate containing surfactants contains two specified types of alcohol compounds e.g. benzyl and phenoxyethyl alcohol. DETAILED DESCRIPTION - An agent improving the odor of a substrate containing surfactants contains one or more of compounds of formula (1) and one or more of compounds of formula (2). Formula (1) Formula (2) R1, R2, R3, R5, R6 and R7 = H, halo, hydroxy or 1-10C alkyl, alkenyl or alkoxy; R4 and R8 = 1-20C linear/branched alkylene, alkenylene or alkynylene An INDEPENDENT CLAIM is also included for an agent improving the perfuming of compositions containing surfactants and perfumes which agent contains the compounds (1) and (2).

USE - Typically used in hair cosmetic materials, such as shampoos and rinses, and body cleaners, such as body soaps.

ADVANTAGE - The agents improve sufficiently the odor of substrates containing surfactants without adverse effects upon perfuming.

Dwg. 0/0

JP 2000016929 A

NOVELTY - An agent improving the odor of a substrate containing surfactants contains two specified types of alcohol compounds e.g. benzyl and phenoxyethyl alcohol. DETAILED DESCRIPTION - An agent improving the odor of a substrate containing surfactants contains one or more of compounds of formula (1) and one or more of compounds of formula (2). Formula (1) Formula (2) R1, R2, R3, R5, R6 and R7 = H, halo, hydroxy or 1-10C alkyl, alkenyl or alkoxy; R4 and R8 = 1-20C linear/branched alkylene, alkenylene or alkynylene An INDEPENDENT CLAIM is also included for an agent improving the perfuming of compositions containing surfactants and perfumes which agent contains the compounds (1) and (2).

USE - Typically used in hair cosmetic materials, such as shampoos and rinses, and body cleaners, such as body soaps.

ADVANTAGE - The agents improve sufficiently the odor of substrates containing surfactants without adverse effects upon perfuming.

Dwg. 0/0

Title Terms: AGENT; IMPROVE; SUBSTRATE; CONTAIN; SURFACTANT

Derwent Class: D21; E14

International Patent Class (Main): A61K-007/46

International Patent Class (Additional): A61K-007/08; A61K-007/50;

C11D-003/20

File Segment: CPI

Derwent WPI (Dialog® File 352): (c) 2003 Thomson Derwent. All rights reserved.

<input checked="" type="checkbox"/> Select All	<input type="checkbox"/> Print/Save Selected	<input type="button" value="Send Results"/>	<input type="button" value="Display Selected"/> Format
<input checked="" type="checkbox"/> Clear Selections			<input type="text" value="Free"/>

© 2003 Dialog, a Thomson business

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-16929

(P2000-16929A)

(43) 公開日 平成12年1月18日 (2000.1.18)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テーマコード* (参考)		
A 6 1 K	7/46	A 6 1 K	7/46	B	4 C 0 8 3
	7/08		7/08		4 H 0 0 3
	7/50		7/50		
C 1 1 D	3/20	C 1 1 D	3/20		

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願平10-186196

(22) 出願日 平成10年7月1日 (1998.7.1)

(71) 出願人 000000918

花王株式会社

東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号

(72) 発明者 土蔵 圭二

東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会社
社研究所内

(72) 発明者 遠藤 路子

東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会社
社研究所内

(74) 代理人 100068700

弁理士 有賀 三幸 (外4名)

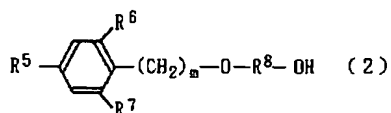
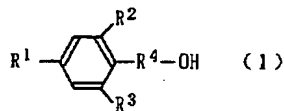
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 生地臭改善剤

(57) 【要約】

【解決手段】 化合物 (1) 及び化合物 (2)

【化1】



【式中、 $\text{R}^1 \sim \text{R}^3$ 、 $\text{R}^5 \sim \text{R}^7$ はH、ハロゲン、OH又はアルキル、アルコキシ等を； R^1 、 R^8 は $\text{C}_{1 \sim 20}$ のアルキレン、アルケニレン又はアルキニレン基を； m は0～4]を含有する、界面活性剤含有組成物の生地臭改善剤、並びに界面活性剤及び香料を含有する組成物の香質改善剤。

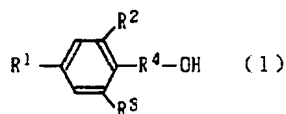
【効果】 界面活性剤含有の生地の匂いが十分に改善され、香料を賦香した組成物に関しても、使用する香料の

匂いを妨げることなく、製品の香りの質を向上させることができる。

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 (A) 次の式 (1)

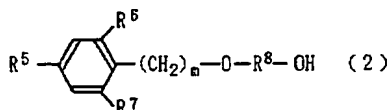
【化 1】



〔式中、 R^1 、 R^2 及び R^3 は水素原子、ハロゲン原子、ヒドロキシ基又は炭素数 1～10 のアルキル、アルケニルもしくはアルコキシ基を示し、 R^4 は炭素数 1～20 の直鎖又は分岐鎖のアルキレン、アルケニレン又はアルキニレン基を示す〕で表される化合物、及び (B)

次の式 (2)

【化 2】



〔式中、 R^5 、 R^6 及び R^7 は水素原子、ハロゲン原子、ヒドロキシ基又は炭素数 1～4 のアルキル、アルケニルもしくはアルコキシ基を示し、 R^8 は炭素数 1～20 の直鎖又は分岐鎖のアルキレン、アルケニレン又はアルキニレン基を示し、 m は 0～4 の整数を示す〕で表される化合物を含有する界面活性剤含有組成物の生地臭改善剤。

【請求項 2】 請求項 1 記載の (A) 式 (1) で表される化合物及び (B) 式 (2) で表される化合物を含有する、界面活性剤及び香料を含有する組成物の香質改善剤。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は界面活性剤を含有する組成物の生地臭改善剤及び界面活性剤及び香料を含有する組成物の香質改善剤に関する。

【0002】

【従来の技術】 シャンプー、リンス等の毛髪化粧料やボディソープ等の全身洗剤は、洗剤の中でも特に、人間自身が使用するものであり、頭皮、毛髪、全身肌など、使用時に匂いを気にする場面が多く、使用時及び使用後にも特に心地良い香りが要求される。従って、シャンプー、リンス、ボディソープ、洗顔剤などに使用される香料は特に注意が払われ、香料を賦香する前の生地臭に対しても、より異臭がなく、使用する香料の匂いを妨げることなく、むしろ向上させることが望まれてきた。

【0003】 しかしながら、これら洗剤等の化粧料に使用される界面活性剤は、香料を賦香する前の生地臭に大きく影響を与え、特に界面活性剤に含まれる未反応生成物及び副生成物、例えば、高級アルコール、多価アルコール類、アルデヒド類、アミン類、脂肪酸類などの匂いは、生地臭の匂いを大きく低下させる原因となってい

た。その為、その生地臭のマスクング、マッチング等の目的で、使用する香料をより多く賦香したり、使用する香料に、より香り立ちが要求されていた。しかし、これは本来使用する香料のもつパフォーマンスの低下、つまり、使用時及び使用後に提供される香りの心地良さを損ねる原因になっていた。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 本発明の目的は、界面活性剤を含有する組成物の生地臭を改善する剤及び界面活性剤と香料を含有する組成物の香質を改善する剤を提供することにある。

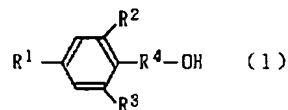
【0005】

【課題を解決するための手段】 本発明者らは、種々の界面活性剤含有組成物の生地臭とこれに香料を加えた場合の匂いの変化について検討したところ、界面活性剤含有組成物に特定の芳香族アルコール類と芳香族オキシアルコール類との両者を配合すれば、前記生地臭が改善され、これに香料を加えた場合には、使用する香料の匂いが妨げられず、得られた組成物の使用時及び使用後に心地良い香りを実現できることを見出し、本発明を完成した。

【0006】 すなわち、本発明は、(A) 次の式 (1)

【0007】

【化 3】

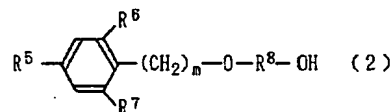


【0008】 〔式中、 R^1 、 R^2 及び R^3 は水素原子、ハロゲン原子、ヒドロキシ基又は炭素数 1～10 のアルキル、アルケニルもしくはアルコキシ基を示し、 R^4 は炭素数 1～20 の直鎖又は分岐鎖のアルキレン、アルケニレン又はアルキニレン基を示す〕で表される化合物、及び

【0009】 (B) 次の式 (2)

【0010】

【化 4】



【0011】 〔式中、 R^5 、 R^6 及び R^7 は水素原子、ハロゲン原子、ヒドロキシ基又は炭素数 1～4 のアルキル、アルケニルもしくはアルコキシ基を示し、 R^8 は炭素数 1～20 の直鎖又は分岐鎖のアルキレン、アルケニレン又はアルキニレン基を示し、 m は 0～4 の整数を示す〕で表される化合物を含有する界面活性剤含有組成物の生地臭改善剤を提供するものである。

【0012】 また、本発明は、前記 (A) 式 (1) で表される化合物及び (B) 式 (2) で表される化合物を含有

30

40

50

有する、界面活性剤及び香料を含有する組成物の香質改善剤を提供するものである。

【0013】

【発明の実施の形態】上記式(1)及び(2)中、 R^1 、 R^2 、 R^3 、 R^5 、 R^6 及び R^7 で示されるハロゲン原子としては、塩素原子又は臭素原子が好ましい。また、 R^1 、 R^2 及び R^3 で示される炭素数1~10のアルキル、アルケニル又はアルコキシ基としては、炭素数1~6のアルキル基又はアルコキシ基がより好ましく、メチル基又はメトキシ基が特に好ましい。 R^5 、 R^6 及び R^7 で示される炭素数1~4のアルキル、アルケニル又はアルコキシ基としては、メチル基又はメトキシ基が好ましい。 R^4 及び R^8 で示される炭素数1~20の直鎖又は分岐鎖のアルキレン、アルケニレン又はアルキニレン基としては、炭素数1~20の直鎖又は分岐鎖のアルキレン又は炭素数2~20の直鎖又は分岐鎖のアルケニレン基が好ましい。

【0014】式(1)の化合物の具体例としては、ベンジルアルコール、p-メチルベンジルアルコール、 β -フェニルエチルアルコール、 γ -フェニルプロピルアルコール、シンナミックアルコール、 α -アミルシンナミックアルコール、アニスアルコール(p-メトキシベンジルアルコール)、 δ -フェニルブチルアルコール、 ϵ -フェニルペンチルアルコール、ジメチルベンジルカルビノール、ジメチルフェニルカルビノール、 β -フェニルジメチルカルビノール、 β -フェニルジエチルカルビノール、 β -フェニルエチルメチルエチルカルビノール等が挙げられる。また式(2)の化合物の具体例としては、フェノキシメチルアルコール、フェノキシエチルアルコール、2-ベンジルオキシエタノール、フェノキシプロピルアルコール、フェノキシブチルアルコール、フェノキシペンチルアルコール、 β -フェノキシジメチルカルビノール、 β -フェノキシジエチルカルビノール、 β -フェノキシエチルメチルエチルカルビノール等が挙げられる。

【0015】本発明の生地臭改善剤は、式(1)の化合物の1種以上と式(2)の化合物の1種以上とが配合されるものであり、これらそれぞれ単独の配合では十分な生地臭改善作用を得ることができない。

【0016】生地臭改善剤への上記化合物(1)及び化合物(2)の配合量は、生地となる界面活性剤、前記未反応生成物、副生成物等の量や匂いの閾値によって異なるが、合計で通常50重量%(以下、単に%で示す)以上、特に70%以上が好ましい。また、化合物(1)と化合物(2)の配合比は、重量比で1:99~99:1が、特に1:9~9:1が好ましい。

【0017】本発明の生地臭改善剤には、上記化合物(1)及び化合物(2)に加えてこれと相溶又はこれを溶解できる溶剤を配合することができる。これらの溶剤としては、特に限定されるものではないが、例えば、エ

タノール、プロパノール、ブタノールなどの低級アルコール類、及びプロピレングリコール、ジプロピレングリコール、ジメチルフタレート、ジエチルフタレートなどが挙げられる。これらの溶剤のうち、相溶又は溶解という点では、エタノール、プロパノール、ブタノールなどの低級アルコール類が好ましいが、生地臭改善剤として、溶剤自身の匂いがより無臭に近い方が好ましいという観点から、ジエチルフタレートが特に好ましい。また、その配合量としては、生地臭改善剤中、50%以下が好ましく、30%以下が特に好ましい。

【0018】本発明の生地臭改善剤の生地としては、界面活性剤を含有する組成物であれば特に制限されないが、界面活性剤及びその界面活性剤製造時の未反応生成物や副生成物(例えば高級アルコール、多価アルコール類、アルデヒド類、アミン類、脂肪酸類等)を含有する組成物が挙げられる。この組成物には、界面活性剤のみを含有する組成物はもちろんのこと、化粧料を製造する前の生地(香料は含まない)も含まれる。これらの界面活性剤を含有する組成物への前記化合物(1)及び化合物(2)の配合量は、合計で0.01~30%、特に0.1~5%が好ましい。

【0019】上記の界面活性剤の具体的な例としては、以下のものが挙げられる。まずアニオン界面活性剤としては、例えば、(1)グリコール酸N-アルキル(又はアルケニル)アミド硫酸エステル塩、(2)アルキルベンゼンスルホン酸塩、(3)アルキル(又はアルケニル)エーテル硫酸塩、(4)アルキル(又はアルケニル)硫酸塩、(5)オレフィンスルホン酸塩、(6)アルカンスルホン酸塩、(7)飽和又は不飽和の脂肪酸塩、(8)アルキル(又はアルケニル)エーテルカルボン酸塩、(9) α -スルホン酸塩又はエステル、(10)N-アシルアミノ酸型界面活性剤、(11)リン酸モノ又はジエステル型界面活性剤、(12)スルホコハク酸エステル等挙げられる。

【0020】上記アニオン界面活性剤の生地、すなわち前記組成物への配合量は、泡立ちや香り立ちなどの点で、0.1~30%が好ましい。

【0021】ノニオン界面活性剤としては、例えば、(13)ポリオキシエチレンアルキル(又はアルケニル)エーテル、(14)ポリオキシアルキルフェニルエーテル、(15)ポリオキシプロピレンアルキル(又はアルケニル)エーテル、(16)ポリオキシアルキレンアルキル(又はアルケニル)エーテル、(18)高級脂肪酸アルカノールアミド又はそのアルキレンオキシド付加物、(19)ショ糖脂肪酸エステル、(20)グリセリン脂肪酸モノエステル等が挙げられる。これらのうち、ポリオキシエチレン(1~30)ラウリルエーテル、グリセリン脂肪酸モノエステルが、増粘作用を示さず好ましい。

【0022】上記ノニオン界面活性剤の生地、すなわち

前記組成物への配合量は、泡立ちや香り立ちなどの点で、0.1～30%が好ましい。

【0023】カチオン界面活性剤としては、第四級アンモニウム塩、特にモノ長鎖型又はジ長鎖型第四級アンモニウムが好ましい。ここでモノ長鎖又はジ長鎖としては、アルキル基、アルケニル基、ヒドロキシアルキル基、アルキルカルボニルアミノアルキル基、アルケニルカルボニルアミノアルキル基、アルキルアミノカルボニルアルキル基、アルケニルアミノカルボニルアルキル基、アルコキシアルキル基、アルケニルオキシアルキル基、脂肪族アシルオキシアルキル基、アルコキシカルボニルアルキル基、アルケニルオキシカルボニルアルキル基等が挙げられる。ここで、アルキル部分やアルケニル部分は、長鎖でも分岐鎖でもよい。より具体的には、特開昭62-141176号、同63-50574号、同63-260991号、同63-260992号、同63-295765号、特開平7-90773号、同7-309723号、同7-309724号、同7-309724号公報等に記載されている毛髪化粧料や柔軟剤に用いられる第四級アンモニウム塩が挙げられる。好ましい例としては、モノ長鎖（直鎖又は分岐鎖）アルキルトリメチルアンモニウム塩、ジ長鎖（直鎖又は分岐鎖）アルキルジメチルアンモニウム塩、モノ長鎖（直鎖又は分岐鎖）アルキルジメチルベンジルアンモニウム塩、ジ長鎖（直鎖又は分岐鎖）アルキルメチルベンジルアンモニウム塩、ジ長鎖（直鎖又は分岐鎖）アルキルメチルヒドロキシエチルアンモニウム塩等が挙げられる。

【0024】カチオン界面活性剤の生地、すなわち前記組成物への配合量は、例えば、毛髪への滑らかさや香り立ちなどの点で、0.1～15%が好ましい。

【0025】さらに、両性界面活性剤の例としては、例えば、イミダゾリン型、アミドアミノ酸塩、カルボベタイン型、アルキルベタイン型、アルキルアミドベタイン型、アルキルスルホベタイン型等が挙げられる。

【0026】この組成物中、及びその界面活性剤中に含まれる未反応生成物及び副生成物としてすべてを限定することはできないが、例えば、高級アルコール類の例としては、ラウリルアルコール、ミリスチルアルコール、セチルアルコール、ステアリルアルコール、オレイルアルコール等が挙げられ、多価アルコールの例としては、グリセリン、ペンタエリスリット、ソルビット、ソルビタン、アルデヒド類の例としては、ラウリルアルデヒド、ミリスチルアルデヒド、セチルアルデヒド、ステアリルアルデヒド、オレイルアルデヒド等が挙げられ、アミン類の例としては、ラウリルアミン、ジラウリルアミン、ラウリルジメチルアミン、ステアリルアミン、ジステアリルアミン、ステアリルジメチルアミン等が挙げられ、脂肪酸類の例としては、酢酸、プロピオン酸、酪酸、カプリル酸、カプリン酸、ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、ヒドロキシステアリ

ン酸、オレイン酸、リノール酸、リノレン酸等が挙げられる。

【0027】界面活性剤含有組成物において生地臭が改善されているで、これに香料を配合した組成物においては、用いた香料の匂いを良好に揮発させ、香質を改善することができる。そのような香料としては、通常シャンプー、リンスなどの毛髪化粧料、ボディーソープなどの全身洗浄剤、石鹸、洗顔剤、柔軟剤などの製品用香料として使用される香料であれば、特に限定されるものではないが、ローズ、ジャスミン、ブーケといったフローラル系の香料との組み合わせが特に好ましい。

【0028】また、本発明で生地臭や香質改善剤の対象となる組成物には、生地臭に影響を与えない範囲で、シリコーン誘導体を配合することができ、感触の向上、残香性の向上をはかることができる。かかるシリコーン誘導体としては、ジメチルポリシロキサン、メチルフェニルシロキサン、メチルフェニルポリシロキサン、アミノ変性シリコーン、ポリエーテル変性シリコーン、脂肪酸変性シリコーン、フッ素型変性シリコーン、環状シリコーン、アルキル変性シリコーン、アルコール変性シリコーン、脂肪族変性シリコーン、エポキシ変性シリコーンなどが挙げられる。

【0029】シリコーン誘導体は、一種又は二種以上を組み合わせ用いることができ、全組成中に0.1～15%、特に0.5～10%配合することが好ましい。

【0030】さらに、前記の対象となる組成物には、生地臭に影響を与えない範囲で、カチオン性ポリマーを配合することができ、すべり性及び香り立ちを向上することができる。かかるカチオン性ポリマーとしては、例えばカチオン化セルロース誘導体、カチオン性澱粉、カチオン化グアーガム誘導体、ジアリル四級アンモニウム塩重合体、ジアリル四級アンモニウム塩／アクリルアミド共重合体、四級化ポリビニルピロリドン誘導体等が挙げられる。

【0031】さらに、前記の対象となる組成物には、上記成分のほか、毛髪化粧料、身体洗浄剤、洗顔洗浄剤等に通常用いられる成分、例えば、保湿剤；粘度調整剤、色素；紫外線吸収剤；酸化防止剤；抗菌剤；防腐剤、精製水などを、発明の効果を損なわない範囲で適宜添加することができる。

【0032】また、前記の対象となる組成物においては、用途により必要に応じ、アルカリ性又は酸性薬剤を用いてpHを3～11に調整することができる。本発明によって香質が改善された組成物は、毛髪化粧料、ボディーソープ、石鹸、洗顔剤、衣料洗剤、柔軟剤等の界面活性剤を含有するものであって賦香されるものであればいずれにも適用することができるが、特にヘアシャンプー、ヘアリンス、ヘアコンディショナー、ヘアトリートメント、ボディーソープ、石鹸、洗顔剤等の毛髪又は皮膚化粧料として好適に用いられる。

【0033】

【実施例】以下の実施例において用いた調合香料の組成を表1～7に示す。

【0034】

【表1】

調合香料A

ゲラニオール	450 (重量部)
シトロネロール	338
ネロール	80
エチルバニリン	2
パールライド	60
テンタローム	60

1000

【0035】

【表2】

調合香料B

ベンジルアセテート	528 (重量部)
ヘキシルシンナミックアルデヒド	236.5
インドール	46.5
リナロール	122.5
ジメチルアンスルアニレート	26.5
γ-ウンデカラクトン	3.5
p-クレゾール	5.5
イランイラン	3.5
オイゲノール	11.5
ベンゾイン	5.5
マルトール	4.5
cis-3-ヘキサノール	2
リナリルアセテート	2
ベンジルイソブチレート	1
cis-ジャスモン	1

1000

【0036】

30 【表3】

調合香料C

リモネン	273.5 (重量部)
ジヒドロジャスモン酸メチル	360
ヘリオナール	35
カローン	0.5
α-ダマスコン	1
リナロール	120
アンバーコア	100
パールライド	120

1000

【0037】

【表4】

調合香料D

ジヒドロジャスモン酸メチル	375 (重量部)
ヘリオナール	45
カローン	1
アンバーコア	105
リナロール	300
セダーアルコール	24
パールライド	150

1000

【0038】

【表5】

調合香料E

リモネン	257 (重量部)
c i s - 3 - ヘキシルサリシレート	10
c i s - 3 - ヘキサノール	0.5
リグストラール	1
ジヒドロジャスモン酸メチル	300
ヘリオナール	40
カローン	0.5
アンバーコア	100
α -ダマスコン	1
リナロール	100
テンタローム	40
β -ヨノン	25
γ -ウンデカラクトン	15
パールライド	120

1000

【0039】

【表6】

調合香料F

ベルガモツトオイル	110 (重量部)
リリアール	140
リラル	130
ゲラニオール	90
ベンジルアセテート	120
メチルヨノン	80
ヘリオトロピン	20
バニリン	10
ベンジルサリシレート	300

1000

【0040】

30 【表7】

調合香料G

ベルガモツトオイル	100 (重量部)
リリアール	150
リラル	130
ゲラニオール	90
ベンジルアセテート	120
メチルヨノン	80
アンバーコア	100
ヘリオトロピン	20
エチルバニリン	10
ベンジルサリシレート	200

1000

【0041】

【表8】

調合香料H

ベルガモツトオイル	100 (重量部)
リリアール	140
リラル	120
ゲラニオール	90
ベンジルアセテート	120
メチルヨノン	80

11

アンバーコア	150
ヘリオトロピン	20
エチルバニリン	10
ベンジルサリシレート	150

1000

【0042】実施例1~9

表9記載の生地臭改善剤、並びに表10記載の化粧料組成物を常法に従って調製し、本発明の効果について、下記の評価方法に基づいて総合的に評価し、その結果を表11に示した。

【0043】(1) 評価方法

室温25℃、湿度65HRの環境に保たれた室内において、専門パネラー10人(男女各5人)で、下記のガラス瓶嗅ぎ口、三角フラスコ水溶液嗅ぎ口、かもじ残香の各場面における香りのスニフ評価を行った。

a. 評価場面

a-1) ガラス瓶嗅ぎ口

100mlガラス瓶広口規格瓶P S No. 11に生地臭改善剤含有の化粧料組成物を、75ml±5ml充填し、その嗅ぎ口について評価した。

a-2) 三角フラスコ水溶液嗅ぎ口

上記調製の生地臭改善剤含有の化粧料組成物を10gと
生地臭向上剤

12

り、300mlの擦り付き三角フラスコに入れ、40℃のイオン交換水で100mlとし、その嗅ぎ口について評価した。

a-3) かもじ残香

- 10 上記調製の生地臭改善剤含有の化粧料組成物を、かもじ(長さ20cm、約20g)に約5g塗布して洗髪し、濯いだ後、水分を十分タオルで拭き取った。この環境下において、処理直後、ドライヤー乾燥後について評価した。

【0044】b. 評価基準

◎: 大変良好

○: 良好

△: どちらとも言えない

×: 悪い

20 【0045】

【表9】

成分(重量%)		実施例・生地臭向上剤						
		1	2	3	4	5	6	7
A	ベンジルアルコール	55	—	—	50	50	—	—
	β-フェニルエチルアルコール	—	5	60	—	25	40	45
	メチルフェニルカルビノール	15	75	—	—	—	—	—
	β-フェニルエチルメチルエチルアルコール	—	10	—	—	—	10	—
	シンナミックアルコール	5	—	5	—	5	—	5
B	フェノキシメチルアルコール	—	—	20	—	—	20	20
	2-ベンジルオキシエタノール	20	—	—	—	10	—	—
	フェノキシブチルアルコール	—	10	20	—	—	30	10
	β-フェノキシジメチルカルビノール	5	—	5	50	—	—	10
溶剤	ジエチルフタレート	—	—	—	—	10	—	10

【0046】

40 【表10】

成分(重量%)		実施例		比較例	
		8	9	1	2
表9の生地臭改善剤1		3	3	—	—
C	ポリオキシエチレン(3)ラウリルエーテル硫酸ナトリウム	10	10	10	10
	ラウリル酸ナトリウム	5	5	5	5
	ポリオキシエチレン(15)ラウリルエーテル	1	1	1	1
	ラウリル酸ジエタノールアミド	1	1	1	1
	ラウリル酸アミドプロピルベタイン	1	1	1	1
	塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	0.1	0.1	0.1	0.1
D	調合香料A	—	0.4	—	0.4
精製水		バランス	バランス	バランス	バランス
計		100	100	100	100

【0047】

【表11】

評価結果

		実施例		比較例	
		8	9	1	2
ガラス瓶嗅ぎ口		○	◎	×	○
三角フラスコ水溶液嗅ぎ口		○	◎	×	○
かもじ残香	処理直後	○	◎	△	△
	ドライヤー乾燥後	△	○	△	△

【0048】(2) 結果

その結果、表11に示すように、毛髪化粧料組成物は、30 生地臭改善剤を配合することによって、生地臭の匂いが十分に改善され、香料を賦香したものに関しても、使用する香料の匂いを妨げることなく、製品の香りの質を向上

させることが判明した。

【0049】実施例10 ヘアリンズ組成物
常法に従って、次に示す処方ヘアリンズ組成物を調製した。

	(重量%)
塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	1.1
セタノール	3
パルミチン酸イソプロピル	0.5
ジメチルポリシロキサンエマルジョン	4
ヒドロキシエチルセルロース	0.1
生地臭改善剤2(表9)	3
調合香料B	0.5
精製水	バランス

100

このヘアリンズ組成物は、生地臭の匂いが十分に改善され、使用する香料の匂いを妨げることなく、製品の香りの質を向上させることが実現できた。

【0050】実施例11 全身洗淨料
常法に従って、次に示す処方の全身洗淨料を調製した。

	(重量%)
N-ラウリル-L-グルタミン酸トリエタノールアミン	6
N-ラウリルメチルタウリンナトリウム	3
ラウリル酸トリエタノールアミン	10

15	16
ミリスチン酸トリエタノールアミン	10
ラウリルイミダゾリニウムベタイン	5
ラウロイルジエタノールアミド	5
プロピレングリコール	7
生地臭改善剤3 (表9)	3
調合香料C	1
防腐剤、キレート剤	適量
精製水	バランス
	100

この全身洗浄料は、生地 of の匂いが十分に改善され、使用 10 【0051】実施例12 固形洗浄剤
 する香料の匂いを妨げることなく、製品の香りの質を向 常法に従って、次に示す処方の固形洗浄剤を調製した。
 上させることが実現できた。

	(重量%)
ラウリン酸モノグリセライド硫酸エステルナトリウム塩	80
ステアリン酸モノグリセライド	7
セチルアルコール	10
生地臭改善剤4 (表9)	2
調合香料D	1
	100

この固形洗浄剤は、生地 of の匂いが十分に改善され、使用 20 【0052】実施例13 粉末洗浄剤
 する香料の匂いを妨げることなく、製品の香りの質を向 常法に従って、次に示す処方の粉末洗浄剤を調製した。
 上させることが実現できた。

	(重量%)
ドデシルベンゼンスルホン酸ナトリウム	23.5
ノニルフェノールポリオキシエチレン (10) 付加物	2
パラトルエンスルホン酸ナトリウム	3
トリポリリン酸ナトリウム	24
ケイ酸ナトリウム	5
炭酸ナトリウム	14
カルボキシメチルセルロース	0.5
硫酸ナトリウム	24
生地臭改善剤5 (表9)	3
調合香料E	1
	100

この粉末洗浄剤は、生地 of の匂いが十分に改善され、使用 【0053】実施例14 液体洗浄剤
 する香料の匂いを妨げることなく、製品の香りの質を向 常法に従って、次に示す処方の粉末洗浄剤を調製した。
 上させることが実現できた。

	(重量%)
ラウリルアルコールポリオキシエチレン (12) 付加物	10
ソフタノール	25
ドデシルベンゼンスルホン酸ナトリウム	4
ラウリル脂肪酸	1
モノエタノールアミン	5
ラウリル酸アミドプロピルベタイン	2
プロピレングリコール	10
亜硫酸ナトリウム	0.1
エタノール	2
生地臭改善剤6 (表9)	2
調合香料F	0.6
精製水	バランス

この液体洗浄剤は、生地 of 匂いが十分に改善され、使用する香料の匂いを妨げることなく、製品の香りの質を向上させることが実現できた。

100
【0054】実施例15 洗顔料
常法に従って、次に示す処方の洗顔料を調製した。

(重量%)	
ラウリン酸モノグリセライド硫酸エステルナトリウム塩	40
ヤシ油	15
セタノール	1
オレアルアルコール	1
精製ラノリン	1
酸化防止剤、防腐剤	適量
水酸化ナトリウム	2
水酸化カリウム	6.5
生地臭改善剤7(表9)	3
調合香料G	0.3
精製水	バランス

この洗顔料は、生地 of 匂いが十分に改善され、使用する香料の匂いを妨げることなく、製品の香りの質を向上させることが実現できた。

100
【0055】実施例16 柔軟剤
常法に従って、次に示す処方の柔軟剤を調製した。

(重量%)	
ステアリルトメチルアンモニウムクロリド	5
エチレングリコール	3
生地臭改善剤7(表9)	2
調合香料H	0.3
精製水	バランス

この柔軟剤は、生地 of 匂いが十分に改善され、使用する香料の匂いを妨げることなく、製品の香りの質を向上させることが実現できた。

100
【発明の効果】本発明によれば、界面活性剤含有の生地 of 匂いが十分に改善され、これに香料を賦香した組成物 30 に関しても、使用する香料の匂いを妨げることなく、製品の香りの質を向上させることができる。

【手続補正書】

【提出日】平成10年7月29日(1998.7.29)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0053

【補正方法】変更

【補正内容】

【0053】実施例14 液体洗浄剤
常法に従って、次に示す処方の液体洗浄剤を調製した。

	(重量%)
ラウリルアルコールポリオキシエチレン (12) 付加物	10
ソフタノール	25
ドデシルベンゼンスルホン酸ナトリウム	4
ラウリル脂肪酸	1
モノエタノールアミン	5
ラウリル酸アミドプロピルベタイン	2
プロピレングリコール	10
亜硫酸ナトリウム	0.1
エタノール	2
生地臭改善剤6 (表9)	2
調合香料F	0.6
精製水	バランス
	100

この液体洗浄剤は、生地の匂いが十分に改善され、使用する香料の匂いを妨げることなく、製品の香りの質を向

上させることが実現できた。

フロントページの続き

(72)発明者 洪江 文夫
東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会社
社研究所内

(72)発明者 平山 良一
東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会社
社研究所内

(72)発明者 中島 基貴
東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会社
社研究所内

Fターム(参考) 4C083 AB032 AB282 AB312 AB352
AB372 AC072 AC102 AC122
AC151 AC152 AC172 AC182
AC212 AC242 AC352 AC372
AC422 AC472 AC542 AC642
AC662 AC692 AC712 AC782
AC792 AC811 AC842 AC852
AD152 AD272 AD282 AD512
AD532 CC23 CC38 CC39
DD17 DD21 DD23 DD31 EE06
EE50
4H003 AB03 AB09 AB23 AB46 AC13
AD04 BA01 BA12 DA01 DA02
EB04 EB06 ED02 ED28 FA07
FA26 FA27 FA28